

平成 29 年度 第10回四国中央市子ども・子育て会議 議事要旨

日時：平成29年12月 21日(木)13:15～15:20

場所：福祉会館3階会議室2

○委員出席状況

【出席】

	(敬称略)
公募市民	村上 智子
公募市民	好井 啓子
NPO 法人カノン代表	寶利 佳代
四国中央市民生児童委員協議会	富原 賀代
四国中央市立三島東幼稚園長	児山 初美
学校法人四国音楽学院理事長(緑ヶ丘、愛和認定こども園)	高橋 雅之
四国中央市立金田保育園長	三好 玲子
社会福祉法人伊予三島福祉施設協会 東保育園長	高橋 尚子
育児サークル「リトル☆スター」代表「ツインチェリーズ」代表	石川 由加
桜ベンチャー四国中央	星川 光代
公立保育所民営化選定委員会委員	宮崎 政夫

【欠席】

NPO 法人にっこりーの理事長	高原 茂
四国中央地区労働者福祉協議会	井上 俊正

○事務局

福祉部長	加地 宣幸
こども課長	藤田 泰
こども課	白石 直樹、尾崎 智恵子、高橋 貴美子、山田 仁美、鈴木 健生
保健推進課	脇 元子
生涯学習課	後藤 嘉明

○傍聴者 なし

◆開会

◆部長あいさつ 加地福祉部長

◆議事

(1) 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

(事務局) 見直し方針について説明

(委員長) 続けて事業点検書について説明をお願いしたい。

(事務局) 事業点検書について説明

児童人口の推計について10%を超える乖離はみられないため、見直しは行わない。

幼児期の教育・保育量の見込みと提供体制について説明

(委員長) 事務局の説明について質問はないか。

待機児童13人の地域別の内訳は。

(事務局) 川之江が9人、三島と土居が各2人となっている。

(委員) 2号認定児が増えているのは間違いない。今後無償化の際にどうなるのかが気になっている。

(委員長) 製紙企業がやる予定の保育所についてはどのようなものか。

(事務局) 企業主導型といって市内では初めての取り組み。認可外とはなるが、事業所内保育とほぼ変わりない。

(委員) 市内企業が取り組むと聞いて大変驚いている。女性労働者の確保など事情があるのはわかるが、最長20時まで預かりが可能となっており、教育上懸念がある。

(委員長) 幼児教育の立場や企業の立場などいろんな考えがある。3歳までの教育は大切だと昔から言われていることではあるが、社会の変化がすごい早さで進んでいるところもある。

(委員) 働く母親の立場から見ると、今回の企業の保育施設はありがたいと思う。例えば市役所の中にもあったら、職員はもっと働きやすくなるのかなと思うが、立場が変わるといろいろな考えがあることもよくわかった。

(事務局) 認可外の施設ではあるとはいえ、認可施設に倣った運営について、企業側とも相談し進めていきたい。

(委員長) 次に地域子ども子育て事業について説明をお願いしたい。

(事務局) 先にこども課以外の事業について説明する。

妊婦健康診査について説明

当事業は10%の乖離があるが、全ての妊婦に行き渡っていることから見直しは不要と考える。

(事務局) 乳児全戸訪問事業について説明

乖離なしで見直しは不要と考える。

(事務局) 放課後子ども教室について説明

乖離はなく見直し不要。

(委員長) 3つの事業について見直しは不要ということでよろしいか。

(委員) 了承

(事務局) ここからはこども課事業について説明する。

利用者支援に関する事業について説明

見直し不要。

(事務局) 地域子育て支援拠点事業について説明

見直し不要。

(事務局) 養育支援訪問事業について説明

10%以上の乖離があるが、事業の性質上見直しは不要と考える。

(事務局) 子育て短期支援事業について説明

一時保護措置としてこれまで対応している。短期支援事業としては見直しは不要。

(事務局) ファミリーサポートセンター事業(就学児)について説明

見直しは不要。

(事務局) 一時預かり事業(幼稚園)について説明

認定こども園ができるまえに策定した計画のため、見込みが大きくなった。見直しが必要。

(事務局) 一時預かり事業(幼稚園以外)について説明

見直しは不要。

(事務局) 延長保育事業について説明

見直しは不要。

(委員長) 朝と夕方どちらが多いのか。

(事務局) 朝の方が圧倒的に多い。

(委員長) 見直しは不要とはするが、朝と夕方の運用については検討を十分に行ってもらいたい。

(事務局) 病児保育について説明

見直しは不要。

(事務局) 放課後児童クラブについて説明

平成27年度以降は利用児童が急増しており、見直す必要がある。

(委員長) 事務局からの説明について、何か意見はあるか。

(委員) 病児保育について、インフルエンザが流行する時期には利用が増加するが、ほかの時期はそうでもないと思う。繁忙期だけ受け入れ枠を増やすことはできないのか。

(事務局) 雇用の関係もあるので難しいと思う。

(委員長) 他になれば、事務局から次回の予定などを。

(事務局) 本日の検討結果を受けて見直し作業を進める。今年度第3回目の会議は2月に開催する。

◆閉会